くと、しまいには池中の鴨を、一羽も殘さず皆生捕る事ができませう。何と旨い法では有りませぬか。

お月さまと星め

やまとの翁

ある月の十五日の　火ともし頃　一人のお大名がお氣に入りの三太夫を　お座近く　召されて、

『コリヤ〳〵、三太夫、もー　お月さまが　出たか』と尋ねられた。すると、三太夫『ハッ』と平伏し、

『これは　殿さまの　仰せとも　思はれませぬ。殿さまが　他々のものに　お對ひ遊ばされては、さま附は　ご無用かと存じまする。殿さまから、さま附に　遊ばされる樣では　私ども始め　下々の者どもは　如何樣に　申して宜しいやら　頓と困りまするで　どーか　其邊の　御賢慮を　願はしうございまする』

お大名　なるほどゝ　御感の體で、

『フーン　ソーか』

との一言。やがて　暫たちますと、

『こりや〳〵　三太夫』

『ハッ』

『エーット　そー〳〵　あの星奴らは　もー出よつたかな』

節儉家の集會

だん〳〵と　世の中が　進んで　物入が　かさんで暮し向きが　難儀になると云ふ所から　勤儉

貯蓄の奬勵と云ふ目的で　ある七八人の節儉家がある所で　會議を開いた。

この會議は　午後の二時から　始まつたが　議論百出　甲論乙駁　中々　容易に議が纏らない。そーこーしてる中に　だん〳〵日が傾いて　點燈頃となつた。そこで　氣の利いた　一人の會員が早速　マッチを取り出して　ランプを燈さうとした。所で　其中の議長とでもいふべき資格の一人が。

『君、ランプをつけようとするのか　これは怪しからん　相談をするに　何も　眼を使ふ必要があるではなし、まして　點燈の必要が　どこに在る？　そんなこつては、大に節儉の趣意に背くでないか』

一座　なる程と感心した。そこで　とう〳〵暗がりで會議を濟ました。

さて　散會となつたが　暗がりで　各自の履物が知れない。是非なく一人が、

『これは　仕方がない　マッチを磨らう』

すると　例の議長が

『なーに　そんな無駄をするには及ばぬ　庭へ下りて　二人づゝ　頭の鉢合せをおやんなさい。直目から火が出るから』

前號考物の解

力轉山上石　石が山の下へ來ると、岩

刀斬水寛竹　寛の竹を斬て仕舞へば、見

不遠千里道　千里を近づけると　重

抱玉一人郎　一人玉を抱ば太で郎、太郎